



「航路の維持管理ガイドライン」の作成に関する議論を開始
～「第 15 回日 ASEAN 港湾技術者会合」及び「航路の維持管理セミナー」の開催結果～

国土交通省港湾局は、ベトナム運輸省海事局の協力のもと、2月28日及び3月1日の2日間にわたり、ベトナム・ハノイにおいて「第 15 回日 ASEAN 港湾技術者会合 (15th ASEAN-JAPAN Port Technology Group Meeting)」及び「航路の維持管理セミナー (Seminar on Maintenance of Navigation Channels in ASEAN)」を開催しました。

日 ASEAN 港湾技術者会合は、日 ASEAN 交通連携[※]の枠組みのもと行っている、港湾技術共同研究を通じ、ASEAN と日本に共通する技術的課題の解決を図るものとして、2004 年から毎年開催しています。今回の会合では、2018～2020 年の 3 年間で策定する、ASEAN 各国が直面する航路・泊地の埋没に対する改善策を提示するための「航路の維持管理ガイドライン」に関し、その構成及び今後の進め方についての基本方針に合意し、まず各国が航路・泊地の埋没対策に係る取り組みの情報共有を行うことで一致しました。

また、会合に先立ち、航路・泊地の埋没対策に係る現在の状況及び最新技術、取り組みを共有する「航路の維持管理セミナー」を開催し、ベトナム政府及び本邦企業のメンバーも加わって、活発な議論が行われ、航路・泊地の埋没対策に対する理解を深めました。

※ 日 ASEAN 間の新しい協力・強調・協働により、(1) ASEAN 諸国の持続的発展の促進・支援；(2) ASEAN 地域の連携強化；(3) ASEAN 諸国・地域と日本との問題意識の共有、政策協調及び連携強化を目指すもの。2003 年 10 月より個別プロジェクトを開始。

■ 第 15 回日 ASEAN 港湾技術者会合 (15th ASEAN-JAPAN Port Technology Group Meeting)

1. 日 時：平成 30 年 3 月 1 日 (木)
2. 議 題：(1) 航路の維持管理ガイドラインの策定 について
(2) 航路・泊地の埋没対策に係る研究事例の紹介

■ 航路の維持管理セミナー (Seminar on Maintenance of Navigation Channels in ASEAN)

1. 日 時：平成 30 年 2 月 28 日 (水)
2. 内 容：(1) ベトナムの港湾及び航路の維持管理に関して
(2) ベトナム国の港湾技術基準策定における協力に関して
(3) 「日本国内での河川港埋没現象と対策検討」
(4) 「日本の浚渫技術と海外実績」
(5) 日本の港湾建設技術の紹介

※ 当該会合及びセミナーの概要については、別紙をご参照ください。

■ 第15回日ASEAN 港湾技術者会合 (15th ASEAN-JAPAN Port Technology Group Meeting)

1. 日 時：平成30年3月1日(木)

2. 議 題：(1) 航路の維持管理ガイドラインの策定 について
(2) 航路・泊地の埋没対策に係る研究事例の紹介

九州大学 中川 康之 教授

インドネシア科学技術評価応用庁・海岸水理研究所 Aloysius Bagyo Widagdo 研究員

ベトナム運輸通信大学 Nguyen Viet Thanh 講師

ミャンマー海事大学 Khin Kyu Kyu 教授

3. 参加者：各国代表 12 名（ブルネイ、カンボジア、ラオス、マレーシア、シンガポール、タイ、ベトナムより各国 1 名、日本 5 名）、専門家 4 名（インドネシア、ベトナム、ミャンマー、日本）

4. 主な成果

- ・インドネシア、ベトナム、ミャンマーの 3 カ国の専門家より航路・泊地の埋没対策に係る研究事例の紹介がなされ、航路・泊地の埋没対策に対する理解を深めました。
- ・「航路の維持管理ガイドライン」の構成に関して概ね合意し、今後、本ガイドラインの作成に向けて、各国で航路・泊地の埋没対策に係る情報提供を行っていくことで一致しました。



(港湾技術者会合の様子)

■ 航路の維持管理セミナー(Seminar on Maintenance of Navigation Channels in ASEAN)

1. 日 時：平成30年2月28日(水)

2. 内 容：(1) ベトナムの港湾及び航路の維持管理に関して

ベトナム海事局 Mr. Do Minh Dat

(2) ベトナム国の港湾技術基準策定における協力に関して

港湾局産業港湾課国際企画室

(3) 「日本国内での河川港埋没現象と対策検討」

(Sedimentary Process around Dredged Navigation Channel at River Mouth)

九州大学 中川 康之 教授

(4) 「日本の浚渫技術と海外実績」

(Dredging and Reclamation Technology in Japan and application results in other countries)

(一社)日本埋立浚渫協会 水流 正人 氏

(5) 日本の港湾建設技術の紹介

(一社)日本埋立浚渫協会

3. 参加者：港湾技術者会合参加者及びベトナム政府及び本邦企業関係者 等(計65名)

4. 主な結果

- ・ベトナム海事局よりベトナムの港湾及び航路の維持管理に関する取り組みの紹介及び九州大学 中川教授より「日本国内での河川港埋没現象と対策検討」の研究発表があり、航路の埋没対策に対する理解を深めました。
- ・また、港湾局よりベトナムにおける港湾技術基準策定の協力に関する取り組みを紹介し、日越両国間で基準策定に向けた今後の取り組みに関する認識を共有しました。
- ・ASEAN 各国から日本の浚渫技術及び港湾建設技術に関する関心が寄せられ、活発な議論が行われました。



(維持管理セミナーの様子)



(左：発表される水流氏、右：発表される中川教授)